



# がどうだより

吟道賀堂流総本部 会報  
第7号 令和6年5月1日  
発行 吟道賀堂流総本部  
会長 磯部賀堂

## 賀堂流第61回流碑祭

春分の日の3月20日、冷たい雨の降る生憎の天気の中、当番会の近畿本部しらさぎ吟詠会の準備により、姫路護国神社本殿及び本殿前にてご遺族と会員123名が参列し、午前11時式典が開始された。石井賀崇石副会長の先導で会詩合吟が奉納され、神事が始まる。野町賀少理事長の先導で遺族代表の小嶋様が功労物故者7名の銘板を賀堂流碑内の安置堂に奉安。昨年度吟士権者の田中賀宝静さんが献吟、引き続き神事後、本庄賀秀峰副会長の閉会の辞で終了。



奉安物故者名 堀川賀抄(近畿白陽)、福住賀梗定(近畿市川)、岸本賀励邦(近畿北辰)、肥塚賀禮(近畿北辰)、小嶋賀東昇(近畿東播)、小林賀雷(近畿しらさぎ)、塚本賀筐(近畿太子)  
(流碑管理委員会)

## 役員総会/参議会

**役員総会** 役員61名のうち出席42名、欠席19名でした。

令和5年度の事業経過報告と会計報告、令和6年度事業計画と予算案が承認された。登録会員数は昨年より50名少ない731名。経費削減と現状を見て、賀堂流吟士権者決定大会の開催要項が大幅に見直された。令和6年12月1日(日)アクリエひめじで開催の創流90周年記念大会の概要と協力金人数は629名、祝賀会参加者は397名あり、記念大会の予算見通しが報告された。(事務局)



**参議会** 参議9名、参議会総務局3名出席、譜節関連内規改定及び譜節の吟じ方の見直しが了承された。

1)賀堂流内規 第7条(2)の見直し:「宗家の承認しない詩歌譜節を各本部主催(又は総本部主催)の競吟大会で吟詠発表してはならない。その他の大会では主催者の会長が認めれば可とする。」に改める。

2)「半のべ入れ付きの引き下げ」(→)の吟じ方:「2度程度ラ音で響かせてシ音を強調する。シ音を強調後にラ音で間を取らない(切らない)。」今年の競吟大会から適用するが、3年程度の猶予期間を設け、切った場合も減点しない。(総務局)

## 吟道賀堂流の歴史(7)

昭和53年に宗家諮問機関として参議会(近畿6名、中国4名、神戸・京都・福山各1名)が開催され宗家資格認定会と段位制を設定、翌54年に譜節教本の統一、吟詠コンクールが審議され、昭和55年近畿総本部の世話役で第1回交歓吟詠大会が中国本部、福山、京都、神戸から約120名が参加して姫路護国神社会館で開催。昭和58年の第4回は中国本部が世話役となり呉市中央公民館で開催されました。



第1回交歓吟詠大会

教本は宗家の許可を得て崇吟社田村賀峰師、檜垣賀陽師が作成していたが、昭和57年に教本編集委員による統一教本編集がスタートし、昭和51年に発刊された財団法人日本吟剣詩舞振興会「漢詩集」及び「アクセント付き漢詩集」の読み、アクセントを準用することで平成元年に定本絶句編が、その後定本律詩編(一)・(二)、教本(一)・(二)・(三)が発行された。



教本の普及と吟法の統一を図るため参議会主催で平成2年に第1回吟士権大会が開催された。

昭和57年の参議会で創流50周年記念行事とし記念誌編集を決めて委員会を立ち上げ、昭和59年6月に全国吟道大会を姫路市文化センターで盛大に開催、11月に創流50年の賀堂流史を発行した。(磯部賀堂)

## 創流90周年記念大会

「**豪壮 幽麗 ひびけ未来へ**」 サブタイトル決定(実行委員会で選考)

18点の応募の中から、京都本部 牧水吟詠会 中川賀公翔さんの作品に決定しました。

「**創流90周年**」を**ご一緒にお祝いしましょう!!**

・日時:令和6年12月1日(日) 9時30分～ ・場所:アクリエひめじ

吟詠大会:2F中ホール

- ・来賓祝辞、永年会員表彰などからなる式典
- ・それぞれの本部で、力を合わせて一体となる大合吟
- ・豪壮にして幽麗な流祖の吟詠から始まる90年の歴史を紐解く構成番組

祝賀懇親会:1F展示場

～会場を一階展示場に移しての祝賀懇親会～

・祝舞・鏡開き・乾杯～懇親会～各本部による余興～フィナーレ





訃報 中国本部会長 伊藤賀久裕先生が去る4月22日ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 近畿本部

### 第14回愛連フェスティバルに近畿本部から3名出場！！

令和6年3月3日 あましんアルカイクホールにおいて第14回愛連吟詠フェスティバルが開催され、近畿本部からは、昨年の燦燦ジュニアの上位入賞者として横山百音さんが「桑乾を渡る」を、兵庫県連選抜者吟詠として木山賀宝さんは「楠公を詠ず」を、また構成番組「頼山陽の漢詩を詠う」から「賢聖の障子」の連吟を歴代第二部吟士権者とし平山賀宝弓さんが、それぞれ素晴らしい吟を披露された。



近畿本部の3名の出吟者の吟を収録した動画をスマホで右のQRコードから見る事が出来ます。

(動画は赤穂吟詠会 塩崎賀雄幸さんからの提供です。)

(企画室)



## 中国本部 安芸吟詠会

### 第33回「けんみん文化祭ひろしま」に出演

令和5年度21世紀の文化「けんみん文化祭ひろしま」は、広島県の豊かな自然と伝統に育まれた文化の発展、継承と育成を図るとともに県民皆様の文化活動の発展、鑑賞、交流の場として、今回で33回目を迎え35団体約400名の出場に私達「安芸吟詠会」も日頃の成果を発表することが出来ました。



また、私達会の所属している「坂町文化協会」は、加入団体による「坂町文化祭」も催され、安らぎを与える瀬戸の海に囲まれ、広島県がより豊かな文化の香り高い県となることを願っております。

後日、大変うれしいニュースで見学に来られた方が、「本吟詠会」に入会された事で、一段と気力がまして地域の文化、芸術活動の一層の発展につなげていけたらと頑張っております。(石澤賀笙翠)



## 京都本部 長岡京吟詠会

### 歴史探訪「吟詠野外研修」を実施しました

京都本部長岡京吟詠会では、毎年、1~2回、詩吟で詠われる漢詩の心を現地で学ぶ「歴史探訪」と、現地での「吟詠野外研修」を実施してきました。これは会員の交流機会としても意義深いものです。

今年は、コロナ禍により4年ぶりの実施となりましたが、25名の会員が参加し、人気の高い楠木正成にまつわる「桜井駅跡史跡公園」と、宇治川、桂川、木津川の三川が合流し、淀川となる地点にある「さくらいであい館」を訪れ、また和やかに昼食会も行い、楽しい交流会となりました。「桜井駅跡史跡公園」は、足利尊氏の大軍を迎え撃つため京都を発った楠木正成が、その子正行と訣別した所と「太平記」にも記されており、記念碑の前で頼山陽の「楠公子に訣るるの図に題す」の吟詠と、唱歌『楠公の歌』も歌いました。続いて訪れた「三川合流域」では地上25メートルの展望塔から、天王山~比良山~比叡山~八幡山崎をも眺望しつつ、眼下の三川が合流して淀川へと流れゆくさまを見下ろし、三十石船で舟下りをしているイメージで、淀川を下る船中での感懐を詠った「舟中子規を聞く」や「花朝瀬江を下る」を吟じ、あらためて詩の意味と心を学び、漢詩を味わいました。(本庄賀秀峰)



## 吟と健康(7) \*\*\* 歯ぐきのお話 \*\*\*

さあ 良い滑舌で美しい発声を！ 楽しく吟じましょう ♪~

そのためには、歯の健康は欠かせませんね。普段から良い歯磨き剤や歯間ブラシで念入りにやっていますが、では歯ぐきはどうでしょう？

歯磨きの際に歯ぐきマッサージすれば→血流が良くなり必要な栄養や酸素が、歯ぐきに届き歯周病などの原因菌に抵抗する力が強まること。①研磨剤が入っていない歯磨き剤 ②やわらかい毛の歯ブラシ ③力をいれすぎない ④歯と歯の境目の小刻みに動かす ④歯ぐきの根本からクルクルと弧を描くように動かす。強くしてしまいそうな方は、人差し指でもよいようです。歯医者さんで指導をあおぐのもお勧めです。

健康な歯ぐきでしっかり歯を、ご自分の健康を守り、詩吟を友に百歳！百歳！

(村山賀聖蓉)



賀堂流ホームページ: <https://gadou.info>  
←スマホで賀堂流ホームページへ

担当 吉永賀鈴、片岡賀弘蒼、村山賀聖蓉  
連絡先 吉永賀鈴 TEL:079-298-5107  
E-mail: garei\_yoshi@yahoo.co.jp